

## ボランティアとして東北の被災地を11回訪問

前職では、総務部で防災担当としての経験があった玉川ひでとし。議員としても“災害に強いまちづくり”にたずさわりたいと思っていました。その中で、選挙の直前に東日本大震災が発災します。“被災地に行って、何か力になりたい！”との思いが膨らみ、区議になってから大田区の区民ボランティアとして、宮城県東松島市の被災地支援ボランティアに参加。現地で見聞きしたものや一緒に参加したメンバーの志に大きな衝撃を受け、東北の被災地にはボランティアとして11回訪れ、今も現地の方々との交流が続いている。

## 冠水や浸水に対応し土のう置き場を26カ所設置

玉川は地元での災害活動にも積極的に取り組んできました。大田区内には、水害によって冠水や浸水の被害が生じる地域がありました。被害の防止対策に効果的な土のう置き場の設置を推進。現在は区内26カ所に設置されています。また、以前に一部地域で浸水被害が起きた時も、現場に駆け付け、被害場所まで土のうを往復して運び、水害を食い止めました。

## 小・中学校などの避難所を「学校防災活動拠点」に

地域の中学校では、東日本大震災発生前から、中学生が運営する避難所開設訓練を実施していました。玉川はこの取り組みに感銘を受け、防災力強化のために区議会で取り上げ、質問・提案をしました。その結果、2012年度から、小・中学校などの避難所を避難者で運営できるようにするための整備事業が開始。避難所開設キットが全小・中学校に配備され、それまでの逃げ込む場所から災害に立ち向かう拠点へと転換、地域の「学校防災活動拠点」とすることができます。そして、このような人の命を救うための防災教育が、いじめや差別をなくす心の教育につながると玉川は確信しています。



## 亡き母の思いを受け継ぎ「がん対策」を推進

玉川が力を注ぐ取り組みの一つに、がん対策の制度拡充があります。玉川の母は15年に及ぶがんとの闘病生活を送り、4年前に亡くなりました。そうした経験から、がん対策の重要性を実感してきました。都議会議員と連携し、最新の放射線治療や緩和ケアの充実を推進。思春期から若年成人(AYA世代)のがん患者支援にも力を注いでいます。

### ■プロフィール

1968年(昭和43年)12月4日葛飾区生まれ。52歳。創価高校、創価大学卒業後、味の素グループのIT関連会社に勤務。社会人3年目の時に大田区に転居。2011年、大田区議会議員に初当選。2019年4月、区議会議員3期目当選。趣味はスポーツ、格闘技、銭湯研究、観劇、国際交流。家族は妻と1男1女。座右の銘は「我以外皆我が師」。

LINE  
公式アカウント

公式チャンネル  
たまちゅんねむ  
YouTube



他のSNSも  
「玉川ひでとし」  
で検索(^o^)/



# KOMEI OTA 大田総支部だより

2021年 春季号

発行／公明党大田総支部 大田区蒲田5-46-10 金親ビル102

## 玉川ひでとしと 党女性局が ウイメンズトークを開催 荏原病院、東京しごとセンターを視察



玉川ひでとし

公明党大田総支部女性局による「ウイメンズトーク」が2020年12月29日にオンラインで開催され、玉川ひでとし公明党東京都本部広報宣伝局次長が参加しました。

集いでは、「女性の働き方改革」や「子育て支援」などが話題に。女性党員の訴えに耳を傾けながら、「女性が輝く社会を目指して、皆さんのお声を都政、区政に届けていきます」と力強く語りました。

1月4日には、都内での雇用・就業を支援するために都が設置した「東京しごとセンター」を視察。さらに、感染症指定医療機関に指定されている荏原病院(大田区)も視察し、関係者から現状の説明や要望を受けました。



## 誰もが安心して暮らせる大田をつくる!

誰もが安心して暮らせる大田を目指し、玉川ひでとし区議会議員(公明党東京都本部広報宣伝局次長)は日々奮闘しています。ここでは生い立ちや議員としての原点、実績等を紹介します。

### 大学時代は空手サークルを創設

東京の下町・葛飾区で3人兄弟の末っ子として生まれ育った玉川ひでとし。

大学在学中に先輩と共にフルコンタクト空手(直接打撃制)のサークルを立ち上げました。鍛えの青春を送るとともに、今でも大会の審判や役員などを務め、スポーツ振興に関わり続けています。

大学卒業後はIT関連企業に就職し、24歳の時に大田の地に引っ越してきました。その後、結婚して1男1女をもうけ、43歳の時に大田区議会議員に初当選を果たしました。

# 公明党大田総支部の挑戦！

## 現場第一主義で多くの実績を実現

公明党大田総支部は常に区民に寄り添い、共に歩みながら、数多くの実績を作っていました。その挑戦の模様と実績を紹介します。

### “全国に先駆けて” 医療費助成制度を創設

1991年、大田区議会公明党は「乳幼児医療費助成制度」の創設を議会で提言。今でこそ同制度は各自治体で実施されていますが、当時は自己負担が主流でした。制度の創設を願う3万7115筆の署名を携え、公明党は当時の大田区長に署名を提出。粘り強い対話を重ねた結果、92年に“全国に先駆けて”乳幼児医療費助成制度が実現したのです。

その後も制度の段階的な拡充を推進し、現在は「児童医療費助成制度」として、区内在住の中学生にまで助成の対象が拡大されています。

### 待機児童問題を解消／ 産後ケア事業を推進

公明党は待機児童の問題を解決するため、認可保育園、認証保育所、小規模保育所、グループ保育室などの新たな保育施設の開設を進めることで、保育環境の拡充・整備に取り組んできました。その結果、2014年には600人以上いた待機児童が、2020年には35人にまで減少したのです。また、子育て世代への支援となる産後ケア事業の導入を推進するなど、安心・安全な子育て環境づくりにも力を注いでいます。



### 羽田空港を国際化／ 羽田イノベーションシティ が誕生

公明党は、大田を代表する施設「羽田空港」（東京国際空港）を基点とした街づくりにも携わっています。成田国際空港が完成した後、羽田空港では国内線だけを運航していましたが、都議会公明党が議会で14回にわたり、国際線の就航を提案。その結果、国際定期便を受け入れられるようになり、国外からの人の往来や経済活動が活性化しました。

2020年には、「羽田イノベーションシティ」が誕生。コンサートホールやホテルも備える同施設では、最先端の自動運転車やロボットの社会実装に向けた実証実験なども行われています。



### 緩和ケアなどの 「がん対策」の充実

がん対策にも力を入れています。都議会公明党と区議会公明党が連携して多くのがん患者や家族の切実な声に耳を傾け、最新の放射線治療や緩和ケアの充実を推進してきました。それとともに患者が働き続けられる環境づくりや、思春期から若年世代(AYA世代)のがん患者支援にも力を注いでいます。

### 公立小・中学校体育館への エアコン設置を推進

近年、熱中症への懸念が高まる中で、公明党は子どもたちが安心して学び、過ごせる環境整備にも取り組んできました。都議会公明党とも連携を図りながら、区内の公立小・中学校体育館へのエアコン設置を区に力強く要望。その結果、体育館へのエアコン設置は進み、2021年度内には全87校への設置が完了する予定です。

### 都営住宅に エレベーターを設置

地域の高齢化に伴って生じる課題にも、区議会公明党はしっかりと目を向け、対策を講じてきました。その1つが「都営住宅のエレベーター設置」です。区議会公明党は都議会公明党とも連携しながら、六郷地域に立つ5階建ての都営住宅3棟に12基のエレベーターを設置（都営住宅では初）。生活の困り事に寄り添う施策として、利用者から多くの喜びの声が上がっています。



羽田イノベーションシティ



### 京浜急行電鉄「蒲田駅」の 高架化を実現

公明党は、長年の課題であった京浜急行電鉄「蒲田駅」の高架化を実現しました。“開かずの踏切”による慢性的な交通渋滞に悩まされ続けてきた区民の声をもとに、大田区や区議会公明党とも連携を図りながら、都議会での質問や予算要望を通じて、高架化の早期実現を訴えてきました。その結果、2000年度から高架化の工事が始まり、2012年に高架が完成しました。これにより交通渋滞は劇的に解消され、地域経済の流通面でも大きな効果が生まれています。

### 街路灯や公園灯などの LED化を実現

公明党が、安心して暮らせる街づくりの一環として推進したのが、街路灯や公園灯などのLED化です。東日本大震災をきっかけに省電力への議論が熱を帯びるなか、公明党はLEDの活用を提案。これによって段階的にLED化が進み、設置初年度（2014年度）だけで、電気代と機器にかかるコスト・約3億円の削減を実現させました。「子どもの塾の帰り道が明るくなって安心しました」といった住民の声が、数多く寄せられています。